

<h1>自転車競技部</h1>	
令和4年度 所属人数	1年 0名 2年 0名 3年 0名
テーマ 東北大会で上位入賞し、インターハイ出場へ	

活動計画

- 6月上旬 全県大会
- 6月中旬 東北大会（インターハイ予選）
- 7月初旬 県民体育大会
- 7月下旬～インターハイ
- 9月中旬 全県新人大会
- 3月下旬 全国選抜大会

活動内容

- 晴天時
ロード練習（20～30km）
※人数や季節によって走る距離は変化します。
- 雨天時
室内にてローラー練習や筋トレ

大会成績

その他

高校からスタートの人がほとんどですが、自分の努力次第で上位大会出場できます。

あきた 中学・高校スポーツ

成長の跡

大曲農高太田分校・自転車部

野中 嘉紀

1人でこつこつ、最後まで



代替大会に向け練習に励む野中

秋田さきがけ新聞 2020年6月12日（金）

朝7時、大曲農高太田分校自転車部・野中嘉紀の一日は、大仙市大田の自宅から約15分先の学校に自転車で行くことから始まる。授業を受け、午後4時に練習をスタート。学校を登着点に、起伏の激しい山道で、1人で練習する。大曲中時代は水泳部に所属。2年の頃から自転車に興味を持ち始め、休日は両親に買ってもらったマウンテンバイクで友人と出てもなく通出した。3年の時に美郷町で開かれた自転車競技の体験会に参加し、高校では迷わず入部を決めた。3年生が1人いたが、先輩が引退した1年の冬からは、1人で練習に励んで来た。自由で好きなことであり気にはならなかったと言ったが、苦勞もあつた。ロードレースの練習では、部員が複数人いれば先頭が風を受け、後方から風に対応するが、1人で向かい風を受けながらペダルをこいだ。佐々木俊友監督は「口をきかずに、内秘めたものがある。真面目にこつこつ頑張れる選手」と評する。苦勞な上り坂でも時速20、30キロのスピードを維持できる。うに、ロード練習ができない雨の日も屋内で下半身をいじめ抜いた。1年時に全道高校総体のロードレース1000メートルタイムトライアル、同じ4000メートル競走で3位に入つて以降、思うような成績は残せなかった。それでも「自転車が好きな」という風気が強くなった。練習を続けられた日々の練習を振り返ると、レースで後続に詰め寄られて順位を下げそうになつた時、きつい練習メニューが続いて手を抜きたくなつた時、最後の力を振り絞ってで前に進むことができた。「精神面での成長が大きいです。自転車を通していろいろな経験を積んだので、始めて本気で良かった。」

自転車競技は7月に美郷町で代替大会が予定されている。その舞台を最後に、競技生活に区切りをつけるつもりだ。

（取材大旗）
（随時掲載）